

第 3275 図

き
く
科



さくらおぐるま

Inula Yosezatoana Makino

千葉県佐倉附近の路傍多湿の地に生える多年生草本でホンバオグルマに似るが、それよりも葉が広く且つ長い。高さ50cm内外、地下に根茎がある。茎は円柱形直立し、目立たないが伏毛がある。葉は倒披針状長橢円形を主とし、長さ12cm内外、先端に鋭尖し、基脚には漸尖する。質薄く、淡緑色、全縁又は多少の低歯牙状鋸歯がある。秋に入ってから茎頂に近く平頂の繖房状に分枝して黄色の頭花をつける。頭花は、径2.5cm許り、オグルマと同じである。恐らく多湿地に生じたオグルマの一型であろう。和名は産地に因む。千葉県の採集家与世里盛春氏の発見である。

第 3276 図

き
く
科



はきだめぎく

Galinsoga parviflora Cav.

北米の原産、近時空地路傍等に帰化拡がりつつある1年生の雑草。全体に軟かい草質で粗雑な観がある。高さ10-40cm、葉は対生し、晩春、頂に小頭花を開いてから、後急に葉腋から岐繖状に盛に分枝を繰返して各枝端に小頭花をつけ、なよなよして倒れ易い。枝葉共に若い部分に白毛がある。葉は卵形、低い疎鋸歯を具え、大形のもの是有柄、暗緑色で質薄く多少三行脈様にみえる。頭花は径5mm内外、総苞は半球形、総苞片は広い楕円形で無毛、三裂した小舌状の花冠は5個、汚白色だが、星芒状に並んでよくみると美しい。心花はすべて黄色、各花に膜質広線形の苞がつく。

第 3277 図

き
く
科



くりやまほおこ

Anaphalis sinica Hance

var. *viscosissima Kitam.*

(= *A. viscosissima Honda*)

栃木県栗山の山地に特産のもので、ヤバネホオコの一地方型とみられる。基本種に比べ、綿毛が少ないため外観は白味少なく且つ瘠せて見え、腺毛が多いため粘着性がある。殊に腊葉にする時は新聞紙に粘りつき、また分泌物が砂糖の焦げる臭気を発する。花部は差異がない。因に基本種のヤバネホオコは揚子江流域にも産し、冬期には純白の綿毛に包まれたロゼットが美しい。礼記月令に「仲冬之月芸始而生」とでている芸(ウンとよむ)はこのヤバネホオコであるらしい。芸は近頃葉の略字としてゲイとよむが、これは芸の字が既にあつたことを無視して作られたものである。

ほそぼひならすゆきそら

Leontopodium Fauriei Hand. Mazz.
var. *angustifolium Hara et Kitamura*

群馬県北部の高山岩石地に稀に産する多年生の小草本である。根葉は簇生し、倒披針状線形で巾は2mm以下、両面に白い綿毛がある。7月、高さ5-12cmの花茎を出し、葉は線形で互生し、全体に白綿毛が多い。茎頂に数個の頭状花が集つてつき、その周囲に線形の苞葉が放射状にならび、苞葉には特に綿毛が密生して白く見える。頭花は径約5mm、筒状花だけからなるが雌花と雄花とが交り、総苞片は縁が暗褐色で、背面には長い白綿毛がある。冠毛は白く長さ約2.5mm、果には少し毛がある。東北の高山に産するミヤマウスネキソウ(*L. Fauriei Hand. Mazz.* 第193図)に比べ、葉が狭い。

第 3278 図

き
く
科



えぞのむかしよもぎ

Erigeron acris L.

北半球北部一帯の高山の気候の山地の向陽隙地に生ずる多年生草本。開花が早ければ2年で枯れる。我が国では信州から北に産する。高さ20-40cmで単立又は少数の茎に分出、全体に開出した毛を生じ、手触りはあらい。根出葉は長さ5cm内外、筒形で上部に1-2の低鋸歯があり、多毛で草質、淡緑色厚味がある。茎上には稍々小柄で広翼の柄のある葉多数をつけ、頂に近づくると各腋に有梗の1頭花をつけ、全体総状となる。花は淡紅紫色で径1.5cm、盛夏を過ぎてから開き、アズマギクに似るが舌状花が短かいために貧弱で太い円筒形の総苞のみ目立つ。花後には蒴果の冠毛が集つて頭花毎に丸くなり、其の色は汚白黄色。和名は北海道産のムカンヨモギ。

第 3279 図

き
く
科



第 3280 図

はるじおん

慣用 はるじょおん

Erigeron philadelphicus L.

北米東部原産の多年生草。30余年前に帰化し、関東の都会に拡がりつつある。全体にヒメジョオンに似ているが、茎は中空、茎葉は基脚耳形をして茎を抱き、頭花は彼より大形で、径2cmに近いが、舌状花は却つて細く且つ開花前に紅色に染み、頭花は點頭しており、花季もまた約1ヵ月先行するの差異がある。該種よりも性質が頑健で、一旦下種すればその冬には根出葉が地を蔽つてしまう程に繁殖力も強い。和名は春紫苑の意で、著者の命名であるが、ヒメジョオン(姫女苑)との類似から却つて春女苑ならんと誤られ、ハルジョオンの名が普及している。好ましくない雑草の一つ。

き
く
科

